長崎市立稲佐小学校

Ⅰ　研究主題

１　研究主題

質の高い多様な指導方法の創造 **～追求意欲重視型道徳学習の展開～**

２　研究の仮説

質の高い多様な指導方法（追求意欲重視型道徳学習を含む）を活用して授業を仕組んでいけば、児童は主体的に学び、物事を多面的・多角的に考え、よりよく生きるための基盤となる道徳性を身に付けることができるであろう。

３　研究内容について

⑴　質の高い多様な指導方法

本校では、これまで実践されてきた再現構成法、価値の明確化、考える道徳などの質の高い指導方法に加え、新たに追求意欲重視型道徳学習を考案した。追求意欲重視とは、何も児童の意欲だけに焦点を当てた学習ではなく、結果として価値理解、他者理解、人間理解、自己理解が深まり、道徳性を高めることができる指導方法である。また、この追求意欲重視とは、児童の追求意欲だけではなく、教師の授業に対する実践意欲も高めることができる。

これまでの道徳の研究の歴史を振り返ってみると、次のような指導方法などが挙げられる。

①　資料の活用類型
②　価値観の類型化
③　総合単元的な道徳学習
④　再現構成法
⑤　価値の明確化
⑥　モラルディスカッション
⑦　考える道徳
⑧　問題解決的な学習
⑨　追求意欲重視型道徳学習

○　本校で考案した指導方法である。児童の追求意欲を高めるための課題を設定し授業を展開することで、多面的・多角的な見方をもとに道徳性を養うことができる。

⑵　追求意欲重視型道徳学習

追求意欲重視とは、児童の意欲だけに焦点を当てた学習ではなく、結果として価値理解、他者理解、人間理解、自己理解が深まり、道徳性を養うことができる指導方法であり、また、この追求意欲重視とは、児童の追求意欲だけではなく、教師の授業に対する実践意欲も高めることができる。

追求意欲を高めるために重要なことは、どのような課題を設定するかである。導入で教材の問題場面を提示し教師が課題を与えた形になっても、学びの過程において問題意識をもって主体的に課題を追求することができれば、それは質の高い学びと言えるのではないかと考える。

①　追求意欲重視型道徳学習の学習過程

導　　入	課題に対して児童の意識を向ける
展　　開	課題を設定する
	課題に対する自分の考えをまとめる
	課題に対して互いの考えを磨き合う
	・他者理解　・人間理解　・価値理解　・自己理解
	価値の追求をさらに深めるための教師の出番
終　　末	自己理解を深める

② 課題が授業の命

追求意欲重視型道徳学習にとって、課題は命と言っても過言ではない。言い換えれば、この課題一つで児童の追求意欲を高めなければならないし、結果として価値理解、他者理解、人間理解、自己理解が実現できなければならない。これまでの実践などをもとに類型化してみた。

A 課題追求型
「明が一男といっしょに遊ばないことを、どう思うか。」

B 疑問解決型
「誠実に生きるとは、どのように行動することだろう。」

C 比較検討型
「2つの教材で、どちらの主人公が友だちを大切にしているだろう。」

D 表現完成型
「手品師の話の続きを作ろう。」

E 目的達成型
「手品師のなぞを解明しよう。」

F 序列決定型
「登場人物を心に残った順に並べよう。」

G 選択決定型
「①～⑩の中で自分が友だちにしてもらったら嬉しいことを5つ選ぼう。」

H 数量調査型
「田中正造のすばらしいことところは、いくつあるだろう。」

I 創造構築型
「友だちと仲よくするためのコツを見つけよう。」

J 具体物完成型
「友情の大切さについてのお話集を作ろう。」

K 活動疑問型
「役割演技を通して疑問に思ったことをはっきりさせよう。」

③ 心のものさしの活用

④ 教師の出番

追求意欲重視した課題を設定することで価値の追求が進んでいくがこれだけでは十分とは言えない。そこで、児童による話合いが終わった後での教師の出番が重要になる。

そのときの発問を考えるときの視点は、次のようになる。

A 視点の転換　B 変容の明確化　C 微差の追求
D 一般化　E 価値の追求　F 価値覚醒
G 価値納得

4 研究の実際

⑴ 質の高い指導方法の実際と考察

> 追求意欲重視型道徳学習以外の質の高い指導方法を道徳科の授業の中に取り入れたことで、児童は意欲的に価値の追求を行い、深まりのある学びができたか。

【考察】再現構成法

1 主題名　「友だちを思う心」
2 教材名　「二わのことり」　第１学年
3 指導方法　再現構成法

挿絵やペープサートを使い、教師が読み語りながら話を展開し、その中で教師が発問をすることで児童を話の中に引き込みながら、価値を追求していく方法である。

4　考察

再現構成法は一般的な指導方法とは違い、教材を 45 分間通して語りながらつぶやきをひろっていく。その分、児童は話の内容に感情移入することができた。みそさざいが迷う場面では、人間理解が見られた。ただノートに自分の考えをまとめる時間がないことは、課題ともいえる。低学年では、ストーリー性のある教材に再現構成法は適しており、高学年でも十分取り入れることができる。

【考察】考える道徳

1　主題名　　「理解し合う心」

2　教材名　　「心のレシーブ」　第５学年

3　指導方法　考える道徳

読み物教材に描かれた主人公の生き方を貫いた信念を手掛かりとして、それを支えた道徳的価値を考える学習方法である。

4　考察

考える道徳は、児童が第三者的な視点から主人公の行為を分析するのではなく、教材の中の主人公に自己を投影させて、道徳上の問題について考えさせる展開が仕組まれる。そのことにより、児童自らが道徳性を養う中で、自らを振り返って成長を実感したり、これからの課題や目標を見つけたりすることができる。この「考える道徳」を通して、児童の他者理解、人間理解、価値理解をより一層深めることができると考える。

【考察】価値の明確化

1　主題名　　「友情を深める」

2　教材名　　「心のレシーブ」　第５学年

3　指導方法　価値の明確化

価値の明確化とは、主題に沿った「価値のシート」を用いて、自分が何を大切にしているのかを明確にし、グループ活動や全体での話合いの中で友達の多様な考えに触れることで、自分の価値を見直し、価値理解を深めるという方法である。

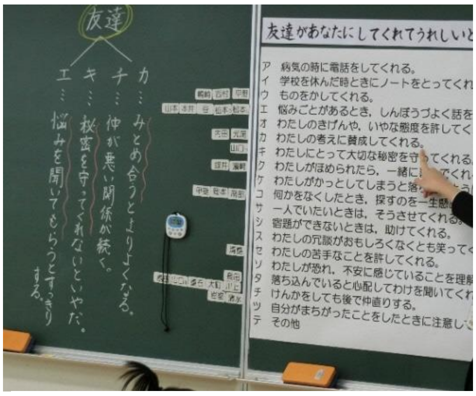


写真 1　板書

4　考察

価値の明確化は、授業の中で価値のシートを主教材として扱い、教科書の話を副教材として扱う。価値のシートには、児童のくらしと身近な項目が書かれているので、じっくりと向き合うことができていた。ただ、価値のシートから教科書の話に移る際に話題が大きく変わってしまうことは課題といえる。価値のシートは、内容項目に合ったシートを作成することで多くの授業で活用できると考える。

⑵　追求意欲重視型道徳学習の実際と考察

追求意欲重視型道徳学習を授業の中に取り入れたことで、児童は意欲的に価値の追求を行い、深まりのある学びができたか。

研究授業は、同じ教材「手品師」を使って６年１組が追求意欲重視型道徳学習（課題追求型）、６年２組が考える道徳の指導方法で行った。次に２週間後、６年２組が教材「心をつなぐ音色」を使って追求意欲重視型道徳学習（数量調査型）で授業を行った。同じ教材で違う指導方法、同じクラスで違う指導方法を実践し比較することで、それぞれの指導方法の成果と課題を明らかにした。考察の一部を紹介する。

【考察】

連想マップと逐語記録に基づく分析から考察を行った。

まず、提示語「道徳」に関して、1組の課題追求型では、「心のものさし：8→12語」「心：9→11語」「考える：8→11語」「大切：2→5語」「意見：2→4語」の回答語が増加している。「ありえないの1なんですけど、当たり前の10とか、10に近い人に聞いてみたいです。」といった児童の発言にも象徴されているように、「心のものさし」を使って課題を追求していく授業スタイルは児童に浸透していっていると言える。このことは、指導方法に関する自由記述の中の、「心のものさしが好きだ。自分の考えの立場が分かりやすく、他の人の意見も分かりやすい。」「心のものさしを使うと、自分の本当の気持ちが出せると思う。」という記述からも見て取れる。また、「考える」「大切」「意見」という回答語が増加していることは、「手品師が男の子の方に行ったことを、あなたはどう思いますか。」という課題を基に互いの考えを磨き合いながら価値の追求を深めていることが要因だと推測できる。その根拠は、次の児童の発言である。「私は当たり前の7から当たり前の10に変わりました。わけは、もし大劇場へ行っていたとしても、男の子との約束を守れなかった後では、本当の手品ができないから7から10に変わりました。」、「僕もKさんの意見を聞いて、どちらともいえないから当たり前の5まで動きました。わけは、Kさんの意見にあった男の子を悲しませてしまうということを考えると確かにそうかなと思ったし、そういえば男の子は両親がいなくて悲しんでいたので、約束を破るのはかわいそうだなと思って動きました。」。2組の考える道徳においては、「友だち：3→8語」「自分：3→7語」「誠実：1→4語」の回答語が増加している。授業の始めに主人公の人生が変わったと思うところを尋ねたが、指導方法に関する自由記述の、「考える道徳は難しい。人生がどこで変わったか悩んだ。」という記述からも分かるように、提示語「道徳」に対して指導方法に関する回答語は少ない。2組の数量調査型では、「話合い：3→6語」「努力：0→5語」「友だち：3→5語」「すごい：0→2語」「辻井さん：0→2語」の回答語が増加している。「話合い」は課題である「辻井さんのすごいところは、いくつあるだろう。」に対してグループや全体で話し合ったことが影響している。また、「努力」「すごい」「辻井さん」については、「普通はダメと言われたら自分も諦めるけど、辻井さんはあきらめないでピアノを練習したり弾き続けたりしたことが、すごいと思いました。今は世界でも活躍していて、目が不自由なのに世界に行けるということはとてもすごいことだから、辻井さんはとてもすごい人だと思います。私もあきらめない人になりたいと思いました。」という振り返りの発言からもわかるように、道徳のイメージと本時の学習をつなげているものと推測される。指導方法に関する自由記述では、「辻井さんのすごいところを7個見つけたが、みんなの意見を聞くことで納得し増やすことができた。みんなも自分の考えを聞いてくれたからよかった。」、「今回の道徳の学習はいいと思った。グループでの話し合いは、発表が苦手な人の意見も聞けるのでよかった。」といった記述からも数量調査型の成果が見られる。

Ⅱ　授業研究部の取組

1　教材分析（教材分析表を作成する）

2　道徳科における評価

⑴　評価の視点

○　道徳的価値の理解を自分との関わりで深めているか。

○　一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか。

⑵　評価方法

ア　児童

○　児童用道徳ノート・振り返りシート(履歴図)の活用

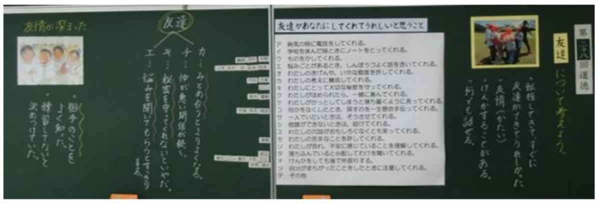
○　板書の写真(ネームプレート)

イ　教師

○　連想調査・連想マップによる評価

3　授業考察記録

各授業の取組や実践をまとめることで、次に実践する際に、その指導法で主価値に迫る発問や手立てを考えることができる。また、記録を上積みしていくことで、次にその教材で学習する際に、その教材に対してより有効な授業方法はないか模索することもできる。



1／21（火）
5年2組　第28回道徳

考察

・「価値の明確化」に挑戦してみて，価値のシートから教材へ移る際の流し方が難しいと思った。

・自分が選んだものを伝え合う際に，なぜこれを選んだのか，理由をしっかり話して，意見のもみ合いができたらよかった。

・選択肢があるので，普段は自分の考えをもつことができない子も，もつことができていた。

・シートの項目を見直し，実態に合ったものにしてもよいと思った。

図１　授業考察記録

4　授業教材の作成及び管理

新教科書単元を考慮し、指導案及び挿絵の印刷を各学年全時間分行った。毎時間の授業をすぐに実践できるようにファイリングしている。教材の準備時間が少なくなることにより、教材研究の時間が確保できるようになった。

Ⅲ　指導計画・調査部の取組

1　学校教育目標の具現化

2　学校教育目標の具現化を目指した重点項目の設定

⑴　令和２年度の重点項目設定

昨年度のアンケート結果や学校教育目標をもとにして、今年度は低・中・高学年に分け、それぞれ３つの重点項目を設定した。「親切、思いやり」「生命の尊さ」は、全学年共通とし、残りの１つは昨年度のアンケートや学校教育目標に照らして設定した。

3　様々な指導方法を取り入れた年間学習計画の作成

4　学校教育目標の具現化を目指した重点項目の設定

5　CS 分析の活用

⑴　CS 分析について

CS 分析とは、満足率と相関係数から、重点改善項目を抽出する分析手法である。本校では、「道徳の授業が好きだ」の項目の評価を高めるために改善すべき要素は何か、という課題を明確にするため、２年生以上の全学級でアンケートを実施し、CS 分析を行った。改善度指数 5.0 以上が改善すべき項目といえる。

項目名	満足率	相関係数	改善度指数
17　道徳の時間に，目当てを決めて考えることは好きだ。	45.8	0.6573	11.1
16　道徳の時間のまとめが好きだ。	50.0	0.6642	10.5
3　道徳の授業はおもしろい。	75.0	0.8412	6.5
6　授業中に手を挙げるとわくわくする。	41.7	0.4936	5.7

表１　改善度指数表（一部）

Ⅳ　環境部の取組

1　道徳性を育む環境づくり

⑴　教室環境の工夫

ア　学級目標の掲示

イ　道徳コーナーの設置

（例）詩、誕生日コーナー、
友だちの良いところ発見コーナー
授業の振り返り　等

⑵　廊下・階段等　校舎内掲示の工夫

⑶　職員室の道徳コーナー活用

○　図書資料、先進校の紀要、授業で使用した資料や教材・教具等を職員室の道徳コーナーに置いている。一か所にまとめ、情報が取り入れやすくなっている。

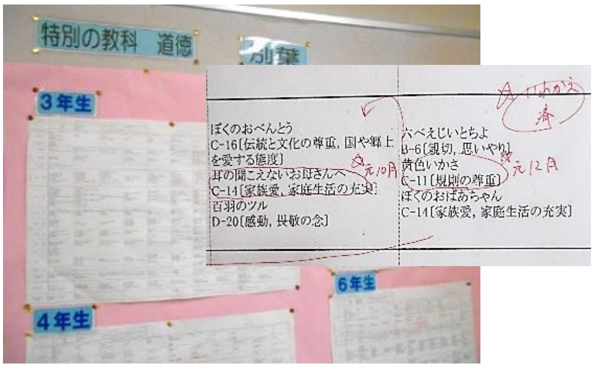


写真２　別葉掲示コーナー

写真３　ワークスペースの道徳コーナー

2　地域・家庭との連携

⑴　省エネ共和国

○　地域清掃やペットボトルキャップ回収に取り組んでいる。

⑵　学年だより・学級通信の活用

⑶　学校便りの地域への配布

3　児童会・委員会活動との連携

Ⅴ　成果と課題

○　これまで実践されてきた再現構成法、価値の明確化、考える道徳などの質の高い指導方法に加え、新たに追求意欲重視型道徳学習を考案した。多様な方法を活用することにより、児童の追求意欲が高まり、授業を活性化することができた。

○　追求意欲重視型道徳学習は、数多くの授業実践を通して、児童の意欲だけに焦点を当てた学習ではなく、結果として価値理解、他者理解、人間理解、自己理解が深まり、道徳性を高めることができる指導方法であることを確認できた。また、児童の追求意欲だけではなく、教師の授業に対する実践意欲も高めることもできた。

○　研究発表会では、「多様な指導法の紹介があって勉強になった」、「課題追求型の有効性を理解できた」「子どもたちが教材文中の人物に自己を重ね、深い思考をめぐらせていた」、「学級経営のすばらしさを感じた」などの評価をいただいた。また、学校としての組織的な研究体制についても肯定的な評価をいただき、本研究の成果を実感することができた。

○　今後は、どの教材でどの指導方法を用いるのか、学年の発達段階に応じた適切な指導方法はどれかなど、さらに実践を積み重ねながら明らかにしていかなければならない。